



## 6月の風景

早い梅雨入りでしたが、青空が見える日も多く、とてもさわやかな気分になります。通勤途上の梅雨の合間に見る風景に心がなごみます。橋を渡りながら、矢田川をみると、鮎釣りの人が川に入り、流れに沿って数本の竿がゆるやかに流れます。そして、海岸線を通ると朝は朝の海の色があり、風でありながら、時折みられる白波に陽の光が当たりきらめきます。帰りも絶景です。陽が海に落ちかけオレンジ色が溶け込んでいる海に漁り火が水平線に一直線に並んでいます。また、もう陽もなく暗い海に浮かんで見える漁り火もいいですね（漁師の方は、一生懸命働いていらっしゃるのにすみません）。旅行に行かなくても、素晴らしい景色が見られる贅沢さ。ふるさと香美、最高です。

「漁り火」という言葉は、とても味のある日本語で、ついつい使いたくなります。このように日本語は、ひとつの光景を表すのにいろいろな言い方があり、日本語の奥深さを感じます。私は、得意ではありませんが古典が好きです。古典にふれる中で6月を「水無月（みなづき）」と言うことに？ どうして、水が無い月が6月なんだろうと疑問に思いました。辞書で調べてみると「無」は、「の」であることを知りました。なるほど、水無月は、水の月。納得しました。こんな些細なことが好きになるきっかけでした。

6月「水無月」は、湿気が多いです。幼稚園の子どもたちは、晴れた日に砂場の遊びに夢中です。火山のような山を作り、頂上のくぼみに水を入れると池のようになります。そこに、あふれるぐらい水を入れたり、その池の中に手を突っ込んだりと水と砂と泥(?)に触ることに夢中です。びしょびしょにぬれたり、汚れたりしそうというのが大人の見方。子どもたちは、水の



冷たさ、水の中の泥の感触が気持ちいいようです。頭ばかりで考えることより、手で触れることで体験し、感性を豊かにすることは貴重です。興味を持ち、行動することは大切です。

6月12日(土)、PTA親子クリーン作戦として高学年の児童と一緒にPTA会員の皆様にはプール掃除をお願いしています。プール水泳(幼稚園はプール遊び)を通して、体いっぱい水を感ずります。水の中では、いろんな動きができます。浮いたり、潜ったりしながら地上ではできない体験が待っています。もちろん、水により体温が変化すること、呼吸の大切さ等も学びます。多くのことを学び、体感し感性を高めていきます。みんな楽しみにしていると思います。

ご多用の折、プール掃除でお世話になります。よろしく願いいたします。